

## 外国語（英語）科学習指導案

三次市立川地中学校  
角 濱 慶 司

1. 学 年 第2学年・発展クラス15名
2. 場 所 美術室
3. 単元名 New Horizon 2（東京書籍） Unit 3 Let's Learn with Computers
4. 単元について

### （単元観）

本単元では、コンピュータが話題の中心として取り上げられている。様々にあるコンピュータの使用目的の中でインターネットに焦点を当て、インターネット上の掲示板で生徒と同世代の子ども2人がそれぞれの住む国の英語教育について情報の授受をするという設定で展開されている。主な新出言語材料は不定詞の名詞的用法と、目的を表す副詞的用法であり、自分の知りたいことを相手に伝えたり、コンピュータを使う目的を述べたりする場面が使われている。これらの表現の意味・用法を理解することで、生徒はこれまでよりも具体的に自分の考えや気持ちなどを表現することが可能になる。また、日本以外の国での英語教育についての記述に触れることで、生徒は国際言語としての英語の役割を知ることができる。さらに、シンガポールでの英語使用の例から、多文化・他民族の環境の中で英語が共通語として使われることを知ることができ、本単元の題材を通して、生徒は英語の背景にある世界についての理解を深めることができると考える。

### （生徒観）

このクラスの生徒は英語の学習に積極的であり、これまでに学習してきたことがおおむね定着しているととらえられる。本単元に入る直前に実施した意識調査では、英語学習への関心について、全員の生徒が「英語の学習が好きである」と答えている。また、全員の生徒が「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4領域の能力全てを「伸ばしたい」と答えている。中でも「『話すこと』の能力を特に伸ばしたい」と答えた生徒が80%を超えており、「話すこと」への関心が特に高いととらえることができる。このことは、同じ調査において「『話すこと』に自信がある」と答えた生徒が半数を下回っていることと関連があると考えられる。その中でも特に、「相手に対して自分から質問して情報を得る」ことや、「相手の言うことに対して自分の考えなどを言う」ことに自信がないとしている生徒が多い実態がある。英語学習への意欲を大切にしながら、多様な言語活動を通して「話すこと」の能力を高める指導を行う必要があると考える。

### （指導観）

本単元の場合設定であるインターネットを介してのやり取りで行われていることは、自分にとって必要な情報の授受である。このことは、意識調査の結果から明らかなように生徒が苦手としている部分である。そこで本単元では、「話すこと」への関心が非常に高い生徒の実態に鑑み、自分の考えなどを相手に伝え、知りたい情報を得るために積極的に英語を使うことのできる対話・会話形式の言語活動を多く取り入れたい。それらを通して、新出の言語材料を習熟させると同時に、英語を使って情報の授受することへの自信をつけさせたい。また、教科書の内容を理解させることで、諸外国での英語の学ばれ方や使われ方に関心をもたせたい。さらに、生徒にとって身近な存在であるALTと情報の授受をさせる場面を多く設けることで、英語の背景にある文化への理解を深めさせたい。

### 5. 単元の目標

間違えることを恐れず、意欲的にコミュニケーション活動に取り組む。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

不定詞を使って、自分の知りたいことを相手に尋ねることができる。（表現の能力）

不定詞を使って、話されたり書かれたりした文を理解し、必要な情報を得ることができる。（理解の能力）

英語が国際語や共通語として世界の多くの国々で学ばれ、使われていることを知る。（言語や文化についての知識・理解）

6. 単元の評価規準

観点 領域	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (ア)	表現の能力 (イ)	理解の能力 (ウ)	言語や文化についての 知識・理解 (エ)
聞くこと	相手が話す内容に関心をもって聞いている。(言語活動への取組)		不定詞を用いた発話の要点を的確につかむことができる。(正確な聞き取り)	場面や状況に応じた表現を知っている。(言語についての知識)
話すこと	間違ふことを恐れず自分の考えなどを話している。(言語活動への取組) 自分の考えなどが相手に正しく伝わるように、表現を工夫しながらコミュニケーションを続けようとしている。(コミュニケーションの継続)		不定詞を用いて、情報を相手に正しく伝えることができる。(正確な発話) 伝えたい内容、相手によって語句や表現などを適切に選択し話すことができる(適切な発話)	相手と情報を授受するためにふさわしい表現を知っている。(言語についての知識)
読むこと		正しいイントネーション、区切りなどを用いて音読できる。(正確な音読)	書かれた内容について正確に読み取ることができる。(正確な読み取り)	不定詞の用法について基本的な知識を身につけている。(言語についての知識) 英語が多くの国で学ばれ、使われていることを知る。(文化についての理解)
書くこと		不定詞を使い、自分の伝えたいことに応じて内容を整理し書くことができる。(適切な筆記)		不定詞の用法について基本的な知識を身につけている。(言語についての知識)

7. 単元の指導計画 (全8時間)

パート (時数)	次	学習内容	評 価					
			関	表	理	知	主な評価規準	評価方法
1. 前単元の復習 (1)	第一時	・前単元のまとめとして行ったALTとのインタビューテストの録画ビデオを見る。 ・評価カードにコメントを記入する。					相手が話す内容に関心をもって聞いている。(ア)  場面や状況に応じた表現を知っている。(エ)	自己評価カード 相互評価カード

2 .Unit 3-1 Starting Out (1)	第二時	・インタビューテストの発話を参考に不定詞の内容を理解する。 ・教科書(Starting Out および Dialog)の新出語句,内容を理解する。				書かれた内容について正確に読み取ることができる。(ウ) 不定詞の用法について基本的な知識を身につけている。(エ)	ワークシート
3 .Unit 3-2 Dialog (1.5)	第三時	・Dialog を音読する。  ・Dialog をもとにペアでスキットを作り練習する。				正しいイントネーション,区切りなどを用いて音読できる。(イ) 不定詞の用法について基本的な知識を身につけている。(エ)	音読テスト (後日)
	第四時	・スキットを発表し,相互評価する。  ・教科書(Reading for Communication)の本文内容を理解する。				不定詞を用いて,情報を正しく伝えることができる。(イ) 英語が多くの国で学ばれ,使われていることを知る。(エ)	ビデオ記録
4 .Unit 3-3 Reading for Communication (2.5)	第五時	・グループごとにテーマを選択し,A L Tの出身国について質問し,情報を得る。 ・質問によって得た情報をまとめた発表するための原稿を作成する。				まちがうことを恐れず自分の考えなどを話している。(ア)  不定詞を使い,自分の伝えたいことに応じて内容を整理して書くことができる。(イ)	ワークシート
	第六時	・前時にまとめたことを各グループが発表する。 ・各グループの発表についてのQ&Aを行う。				相手が話す内容に関心をもって聞いている。(ア) 相手と情報を授受するためにふさわしい表現を知っている。(エ)	相互評価カード
5 .まとめ (2)	第七時	・第5時に行ったA L Tとの会話のビデオ記録の一部を見る。 ・What do you want to be?というトピックで変動ペアによる対話を行う。(本時)				不定詞を用いた発話の要点を的確につかむことができる。(ウ) 自分の伝えたいことを相手が理解できるように工夫しながらコミュニケーションを続けようとしている。(ア)	ビデオ記録 ノート
	第八時	・A L Tとの面接による会話(インタビューテスト)を行う。				不定詞を用いた発話の要点を的確につかむことができる。(ウ) 伝えたい内容,相手によって語句や表現などを的確に選択し話することができる。(イ)	ビデオ記録

## 8. 本時の展開

### (1) 本時の目標

自分の考えなどが相手に正しく伝わるように、表現を工夫しながらコミュニケーションを続ける。

( 関心・意欲・態度 )

発話を聞いて、その要点を的確に理解する。( 理解の能力 )

### (2) 本時の評価規準

自分が将来なりたいものについて相手に正しく伝わるように、表現を工夫しながらコミュニケーションを継続している。( 関心・意欲・態度 )

不定詞(want to be ...)を含む発話を聞いて、その要点を的確に理解している。( 理解の能力 )

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 ( ) 指導者の支援 ( )	評価規準	評価方法
1. Greetings 2. Warm-up ・ペアワーク <i>Talk with Your Partner!</i>	前時よりも多くの文を言えるように目標をもたせる。		後日小テスト
3. 第5時の会話のビデオ(一部)を見る。	相手の言ったことに対し、コメントをしたり理由を尋ねたりしている場面を見せることで、本時の言語活動の目標をつかませる。		
4. ペアワーク(対話)の準備をする。	自分の考えを相手にわかりやすく話せるように、表現の工夫について考えさせる。 生徒からの質問に答える。		
5. 変動ペアによる対話を行う。	相手が「将来なりたいもの」とその理由を必ず聞き取るよう目標をもたせる。 質問の仕方などを互いに参考にして、対話を発展させるようにする。 メモを取りながら聞かせる。 どうしても表現が思い浮かばない場合は助言する。	理由をつけて述べるなど、自分の考えが相手に正しく伝わるように、表現を工夫しながらコミュニケーションを継続している。 相手が言っていることの要点を的確に理解している。	ビデオ記録
6. ペアワーク(対話)のまとめを行う。	1人から聞き取ったことについて、2文以上書かせる。 時間内に終わらない部分は家庭学習課題とする。 生徒からの質問に答える。		ノート
7. 本時の活動を振り返り、カードに自己評価を記入する。	振り返りカードを配布する。		振り返りカード